

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/6/3
所属学部・ 研究科・学府	教育学部
所属学科・専攻	小学校教員養成課程小学校英語選修

1. 留学先について

留学先大学名	タンペレ大学							
留学先所属学部等	The faculty of Education and Culture							
留学期間	出発日	2019.08.09	入学日	2019.08.19	修了日	2020.05.31	帰国日	2020.03.26
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="checkbox"/> 民間アパート	その他()					
	通学時間	15分					On campus	
	通学方法	バス						
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室	() 人部屋	その他()				
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input checked="" type="checkbox"/> キッチン	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ	<input checked="" type="checkbox"/> バス	<input checked="" type="checkbox"/> リビング	その他()	
食事	自炊	83%	学食	13%	外食	4%	その他()	
保険	海外旅行保険(名称)	AIG保険損保「海外留学生保険」						
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		ヘルシンキ(飛行機)			⇄ タンペレ(バス)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	円						
出どころ							
自費	<input checked="" type="checkbox"/>	貯金	円	アルバイト	円	その他	円
援助	<input type="checkbox"/>	両親	円	家族・親戚	円	その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/>	JASSO	800,000 円	その他名称()			円
その他	<input type="checkbox"/>		円	その他()			円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	✓	現金	10,000 円	✓	その他 (ユーロ)	40,000 円
留学中	✓	海外送金	キャッシング		その他 ()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	全額、クレジットカードで。
住居にかかった費用	全額、国際送金で。
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額
	通貨単位		
渡航費(往復)			円
海外旅行保険			円
OSSMA			19,618 円
査証・在留許可証	€	353	41,700 円
住居			345,624 円
食費	€	616	75,152 円
通学に要する交通費	€	337	41,451 円
教科書、教材費		0	0 円
その他大学に支払った経費	€	93	11,439 円
光熱費		0	0 円
その他 (スマホ使用料)	€	145	17,835 円
その他 (雑貨・日用品)	€	502	61,746 円
その他 (外食)	€	463	56,949 円
その他 ()			円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
1 Education, Schooling and Society		5	有	✓	無
2 Finnish Survival Course		2	有	✓	無
3 Practical Observation of Finnish School System for Incoming Exchange Students		5	有	✓	無
4 Preparatory Course in Communicative Skills		2	有	✓	無
5 Finnish Elementary Course 1		3	有	✓	無
6 Language, Communication and Culture		5	有	✓	無
7 Finnish Society and Culture, Lectures		3	有	✓	無
8 Teaching and Pedagogical Facilitation, Lectures		5	有	✓	無
9			有		無
10			有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

タンペレ大学のホームページからシラバスを検索し、自分に合った授業を選択する。その後、Nettiopsと呼ばれるシステムを通じて授業登録を行う。期間内に履修予定の授業登録することが必要で、たまに授業受講の許可が出ないこともある。第1回目の授業には必ず参加しなければならず、参加することでその授業の履修を認められたことにもなる。Nettiops登録に必要な情報は学期開始時のWelcome Weekのオリエンテーションで説明された。その時に、大学の教育端末用のIDとパスワードも配布される。

3-2. 授業内容、方法に関して

対面式の授業やオンラインの授業を選ぶことができる。(コロナ感染症流行後はすべての授業がオンラインに移行。)基本的にムードルを用いて授業が進められ、ムードルを通して授業資料の共有や授業の情報などが公開される。Lectureベースや討論ベースのものは担当教授によって異なる。自分は討論を多くするものを中心に履修していた。授業時間について、日本のような何限目というくりはなく、毎週同じ日にする授業もあれば、ランダムに行われる授業もあり、授業時間もさまざまである。

3-3. 語学力について

授業に関する語学力は、自分の専攻分野の授業であれば、タンペレ大学留学応募の際の基準に達していれば、問題ないと思われる。私の場合は、千葉大学での専攻が教育学部の英語科であったため、授業内で英語に接する機会も多々あり、授業で語学力についての問題をさほど感じなかった。しかし、日常会話での趣味や習慣を話す際に、他の人との語学力の差を痛感することもあった。伝えられてはいると思うが、相手の語学力の方が高いと感じることも多く、また、留学最初はBritish Englishに耳が慣れておらず、聞き取れないこともあった。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館を平日はほとんど毎日利用していた。蔵書はE-bookが多かったため、本を借りることは少なかったが、オンライン上で図書館の本を読んでいた。大学の図書館は自習するスペースが充実しており、授業前後で利用していた。また、大学内のスポーツ施設の1年間のパスを購入し、ジムやダンス・ヨガなどのグループエクササイズに参加していた。土日はその施設のコートを借りてバトミントンすることもあった。主に利用していたMain Campusには3つのカフェテリアと2つのカフェがあり、お昼はそこで食べるが多かった。大学内は全館WIFIが完備されており、つながらなかったという経験はない。

3-5. その他

4. 生活面

4-1. 住居について

4人で1つのファミリータイプのアパートの1室をシェアしていた。鍵のかかる自分の部屋と冷蔵庫がそれぞれあり、キッチンとバスルーム・トイレが共有であった。キッチン用具やそのほかの自分のものを置く棚は決めており、混合することはなかった。シェアが始まってすぐに、掃除当番や共有のものの購入表などを作成し、問題が出たときはその都度、グループチャットで呼びかけていたため、大きな問題は起こらなかった。

4-2. 食生活について

日本にいたときと同じものを基本的に購入することができる。アジアンマーケットが大学近くにあり、日本の調味料はそこで購入した。ただ、輸入しているものなので高く、どうしても欲しいものの購入のみを行っていた。普段は近所のスーパーで買い物をしており、基本的に自炊である。毎日作る暇はなかったので暇なときに作り置きして冷凍保存していた。日本のように小分けで物が売っているわけではないので、大量に作って保存したほうが節約にもつながる。パスタやパンが主食であるため種類が豊富だった。また、野菜などは量り売りだがたまに傷んでいるものがあるため、注意が必要である。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

大学内はWIFIが完備されており、主なカフェにもWIFIがあるのでネット環境に苦労はなかった。携帯電話もネット無制限で1か月2000くらいで、電話代はその都度SIMにチャージして使っていた。

4-4. 服装について

半袖はもともと持って行っていなかったが、スポーツ用に1枚購入した。冬はニットを着ていた。室内は基本的に20度前後で保たれているので、温度調節しやすい服装(厚手のコートにカーディガンに薄手のニット)が適していると思う。私が留学したときは暖冬であったため(留学先の冬は平均-5度前後)、防寒対策はそこまでしておらず、日本から持ってきていたダッフルコートと厚手の手袋、マフラーで十分であった。

4-5. 健康管理について

日照時間が少ない秋から冬にかけては、ビタミンのサプリメントを服用していた。現地のスーパーなどで数多く販売しており、チューターや友人たちにアドバイスをもらって購入していた。そのほかは、体調を崩すことはなく、健康に留学を送れた。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

大学からの要請でOSSMAに加入していた。保険は親が利用しているところで海外留学用のものに加入した。滞在中に利用することは特になかった。

4-7. 課外活動について

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

4-9. 日本から持参してよかったもの

インスタント味噌汁、カレールー、箸、しょうがチューブ、折り紙、文房具、ルーズリーフ、レターセット、ポケットティッシュ、ヒートテック、ビーチサンダル

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

特になし

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

週に1回アパートのサウナを予約して入っていた。また、友人とカフェや日本食レストランなどに行く日もあった。

5. その他

5-1. 留学先大学について

フィンランドの中でも大きな部類に入る大学で、理系や文系など様々な学生が集まっている。春学期・秋学期共に多くの留学生を受け入れており、留学生に対する支援が充実している。大学は数年前からすべての学生にチューター制度を取り入れているため、慣れない最初の頃は、チューターに相談したり、彼らが手助けしてくれたりする。留学生に向けてのイベントも多く開催されており、国外から来る学生に対してオープンな大学と言える。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

派遣留学を考えたら、まず留学先で何をしたいかをイメージするとよいと思う。私が留学先大学を決めた理由は、そこで行われている授業で受講したいものを見つけたからだ。報告書やHPから情報を集め、まず留学先について知ることが大切だと思う。留学自体は敷居の高いものではないと思うが、留学準備には多くの時間を費やさなければいけないので、早め早めの行動が大切である。

5-3. 留学を終えて

派遣留学を実際にして、自分の中で明確に何かが変わったとは言い難い。しかし、将来のためにもっと学びたいと思うようになった。大学卒業後は大学院進学を希望しているが、留学先で多くの人が大学院進学を希望し、大学院で学んだことを活かしている姿をみて、自分も大学院でさらに学んで社会に出たいと考えようになった。また、留学を通して、自分の中での取捨選択が上手になったと思う。留学中、多くの人と知り合う中で、「こうしたい」「ああしたい」と思う理想と自分の現実の限界が一致しないことが多くあった。慣れない土地で生活する上で、自分のしたいことをすべてかなえることは難しく、優先順位を決めて何をして何を次に回すかということを考えながら物事に取り組むことができたと思う。